

かがやき

設立10周年記念号

10周年記念行事 富岡製糸場見学



かがやく町民のつどい



主な内容

設立10周年企画

- ・設立十周年に寄せて
芳賀町長・芳賀町議会議長
- ・これからを考えて
- ・広報誌かがやきのあゆみ
- ・歴代会長・副会長
- ・各団体十年のあゆみ

- ・総会
- ・かがやく町民のつどい
- ・日本女性会議2009さかい
- ・第12回全国シェルターシンポジウムとちぎ
- ・十周年記念事業
- ・編集後記

研修会



十周年記念事業

小雨の降る十二月三日、群馬県富岡製糸場の見学をして来ました。手入の行き届いた古木の庭とレンガ造りの建物が私達を出迎えてくれました。ガイドボランティアの案内で敷地内の見学。ここで使用されているレンガは日本の瓦職人が焼いた物で、建材も全て国内産だそうです。重要文化財である為見学範囲が制限されていますが、繰糸場内の見学が出来、昭和六十二年まで使用されていた自動繰糸機の間を歩くと、昔の女工さ



んの姿が目につくかんてくるようです。労働時間八時間、年間二百八十日と先進的な労働条件に感動しました。女工さんの多くは武家や豪農の娘であり、技術を習得した後、に故郷で指導者となりその地の産業として広めるなど、

日程

町民会館 → 上三川IC → 佐野藤岡IC →
8:00発 9:30
→ 太田桐生IC → 富岡IC → 富岡製糸場 →
10:00 10:40 11:00~12:00
→ 昼食 → 道の駅しもにた → 道の駅ふじおか →
(よろづや料理店) 1:30~2:00 2:30~3:00
12:10~1:00
→ 藤岡IC → 太田桐生IC →
3:30
→ 佐野藤岡IC → 上三川IC → 町民会館
5:30着

日本の近代化に貢献した事に感激しました。私たちが男女共同参画を叫ぶ百年以上も前に、その大きな一歩を踏み出した女性達がいた場所に立つ事の出来た日となりました。

(菊地)



編集後記

記念事業に携わり、学ぶことが多い二年間で大変感謝しています。 川又 和子

思いがけなく十周年と言う節目の年に広報誌に関わらせても感謝しています。 菊地富士子

設立十周年記念号を制作するにあたって、編集委員として関わらせて嬉しく思います。 小林 峰子

女団連の広報担当としての二年間、たいへん勉強になりました。色々有難うございました。 佐藤 幸枝

十周年の特別号に、皆様より素敵なご寄稿を頂きまして、誠に有難うございました。 菅原 キン

皆様の御協力で記念号ができました。ありがとうございました。 廣木 初江

女性団体連絡協議会設立十周年に寄せて



芳賀町長 豊田 征夫

「芳賀町女性団体連絡協議会」が、ここに設立十周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

この間、歴代会長さんをはじめとして、役員・会員の皆様には、それぞれの団体で幅広く活躍されていることに対し、心から敬意を表します。

また、町の各種事業にも積極的に取り組まれ、ご協力いただいていること厚く感謝申し上げます。

さて、現在、私達を取り巻く社会情勢は、少子高齢化と相まって、近年は地域の連帯感の希薄化が懸念され、また、長引く経済不況や雇用不安等様々な問題

が山積しています。

このような中、皆様に何が求められているのかといえますと、男女ともにお互いの人権を尊重しながら、一人の人間として生きていくことが大切であり、そのための努力は男女問わず必要であると思います。これにより、いい家族・地域・町づくりに繋がるのではないのでしょうか。

こうしたことから、芳賀町女性団体連絡協議会の皆様が、地域社会や組織の牽引役として果たす役割は、今後益々重要になって参ります。

町といたしましても「女性の自立性を高めること」「社会発展のあらゆる場面に、女性と男性が共に貢献できること等」を重点に各種の施策を皆様と協働で進めて参りたいと考えています。

設立十周年を契機とされ、協議会の益々のご発展をご祈念し、お祝いの言葉といたします。

これからを考えて



会長 廣木 初江

少しもまとまったものが書けずにあたふたとしています。私は設立当初から関わった方々と違い、また思いがけず会長をお引き受けした上、この記念誌号の発行となり、本当に困っているのです。

と言うことで私の好きな言葉を挙げさせていただきます。「地球規模で考えて、足元からの行動」

・環境のことを考え、節電をし、ゴミを出さない。

・世界の平和を願い、地域を大切に・・・など。

当たり前と言えば当たり前の事です。

一人一人のできることはほんの僅かですが、大切なこと

です。それを皆でやれば一つの力となります。そう言う力をもった団体が集まったのですから、希望を揚げなくてはなりません。

女の子は絵が描けるようになると、人や花や動物を、男の子は自動車やロボットを描きます。女という性は「生きる」「生きている」「命あるもの」が好きなのではないかと思えます。協議会のそれぞれの団体は、それぞれ目的をもって「生きる」とに関わっています。女性の活動とはそういうものだと思います。

目指すものは、突き詰めると次の世代にも、その次の世代にも、平和な世界を残す事ではないのかと思っています。だから力をあわせていかなければならないと、あなたの力が必要だと、こんなことを考えています。

歴代会長・副会長名とかがやく町民のつどい

年度	会長名	副会長名	かがやく町民のつどい
平成12年	黒崎 幸恵	小筆 公子	吉永タイ子
13年			講演会「ストレス社会をどう生きるか」 春雨や雷蔵
14年	黒崎 幸恵	小筆 公子	田川 典子
15年			映画鑑賞会「老親」 映画鑑賞会「アカシアの道」
16年	田川 典子	斉藤 芳子	安保百合世
17年			大島彰 電子オルガン 演奏会 馬頭琴と琴のしらべ
18年	田川 典子	斉藤 芳子	増渕さつき
19年			男女共同参画講演会 講師 宮本まき子 各団体の活動発表
20年	廣木 初江	小林 功子	岡田 順子
21年			地元の食材を利用した「試食会」 講演会・試食会「10歳若返る!! 病気にならない食の話」講師 竹井真澄

つどいなるアムニオンに期待



芳賀町議会議長 大林 幹侑

芳賀町女性団体連絡協議会設立十周年記念誌「かがやく」の発行に際し、議会を代表しまして、一言お祝いの言葉を申し上げます。

また、芳賀町議会の活動につきましても、日頃から皆様方の深いご理解とご協力をいただいていることに対し、厚く御礼を申し上げます。

皆様の団体は、国の「男女共同参画社会基本法」の制定と時期を同じくして、女性が主体で活動されています七団体で組織されております。

その活動内容は、協議会広報誌「かがやく」において、詳細にご報告をされており、いままさながら私が申し上げるまでも

ございません。

活動の一環としての、全員による模擬議会も既に5回開催され、この模擬議会は隔年開催で22年度が次の開催予定と伺っております。

現在二名の女性議員と三名の農業委員会委員が活躍しておりますが、男性に比べ女性には、政策決定の場への参加や各分野への登用が少ないという現状があります。

皆様には模擬議会への参加等を通じて、町政の仕組みや議会活動への理解と関心を深めていただき、これからの「まちづくり」に女性の視点を活かしていただきたいと思います。

結びに、今後とも益々研さんをつみ年間テーマに基づいた、さらなるアクションを起こしていただき、すばらしい活動結果を「かがやく」誌上で拝見できますようご期待申し上げます。

芳賀町女性団体連絡協議会



第3号



第2号



第1号



第6号



第5号



第4号



第9号



第8号



第7号

芳賀町女性のつどい実行委員会



第3号



第2号



創刊号



第6号



第5号



第4号



第8号



第7号

広報誌かがやきのあゆみ

かがやき創刊号からの表紙を掲載

歴代会長・副会長

設立十周年によせて



初代会長
黒崎 幸恵

平成十一年十一月〜平成十六年三月

「芳賀町女性団体連絡協議会」設立十周年、誠におめでとうございます。

思い起しますと、平成十一年十一月二十日に設立総会を開き、十二年の四月から協議会として本格的に活動を始めました。折りしも、平成十一年六月には「男女共同参画社会基本法」が公布・施行されて、女性として何が出来るか、連携して行動していくという機運に満ちておりました。会の発足には十一団体がかわり、それまでの「女性のつどい」の経験を生かしながら、

十周年によせて



二代目会長
田川 典子

平成十六年四月〜平成二十年三月

女団連設立十周年おめでとうございます。女団連は女性の地位向上と社会参加の促進を目的に各女性団体に呼びかけて設立されました。当時町内にはいくつもの女性団体がありましたが、横の連携は無くお互いの活動は

芳賀町三ツ田



初代副会長
吉永タイ子

平成十一年十一月〜平成十四年三月

県の補助事業「女性問題啓発事業」を受け、各女性団体の協力を得て、女性のつどい実行委員会を組織し、各事業を実施した頃は、事務局として携わり、

十周年によせて



副会長
齊藤 芳子

平成十六年四月〜平成二十年三月

女団連設立十周年おめでとうございます。設立当初から何らかの形で関わらせて頂き活動を通して、多くの方々との出逢い

その後は、役員として設立に関わり、皆様と共に行動できたことを大変うれしく思っています。顧みると、何をするにも会長を中心に、皆で十二分に話し合っ

十周年によせて



副会長
増淵さつき

平成十八年四月〜平成二十年三月

があって、喜びや感動、涙、学び、又共に味わう事が出来た達成感、等々、私の人生のページに大きく残る心の財産になりました。

私にとっても一番の思い出は全盲の電子オルガン奏者、大島彰さんの演奏会をつどいでお呼びする事ができた事です。演奏と語りを通して、やればできるの信念や、生きる勇氣希望を与えてくれた、涙なくして聴けなかった、素晴らしい演奏会でした。又「心の月は沈まない」という著書も手放せない、私の愛読書になっております。

女団連の益々の活躍お祈り致しております。

私と貴会とのご縁は、十四年前に遡ります。

「第二回芳賀町女性のつどい」にシンポジストとして参加させていただいたのです。その後、平成十六年から四年間、「芳賀くらしの会」からの役員として会務に関わってまいりました。

発足当初は九団体あった貴会も、残念なことに減少傾向にあると聞いています。私自身、入会を機に女性同士の連帯の楽しさ、活動のおもしろさを学んできました。目的も構成員も異なる団体が集まっているからこそ、その困難を乗り越えた活動の達成感も一人のはず。

諸先輩から引きうけたバトンを次の世代に繋ぐためにもさらなる前進を期待しています。

各団体この10年のあゆみ

芳賀町商工会
女性部

芳賀町商工会女性部は、昭和五十二年六月一日に、商工会婦人部として創立され、三十二年の歴史を持つ団体です。現在は、六十五名の部員と共に、元氣な商い・元氣な女性部をモットーに活動しています。

この十年を振り返って見ますと、大勢の先輩方の協力の元、いろいろな事業を行って参りました。

中でも、平成十六年に商工会館前に設置されました、空き缶回収機は、当女性部の三年間に渡る地道な努力があつてこそ実現しました。現在は、ボランティア団体「ひまわりリサイクル」の皆様によって運営されています。

また、平成九年から継続している「なるほどリフレッシュ事業」では、毎年衣・食・住の一つをテーマに講習会を行っています。その他、部員研修や郡内商工会女性部合同研修などを通



して、部員間の親睦を深め、情報交換の場としても役立っています。

今日の、時代の変化・環境の変化は目まぐるしく、そんな中で商いを続け、生き残っていくには、女性ならではの柔軟さと独創性が大切だと思います。

この不況の下、廃業などで部員の減少が続いていますが、部員の力を合わせて、元氣な商い・元氣な女性部を目指して頑張っていきたいと思っています。



くまの会

芳賀くらしの会は現在会員十九名、県の消費者リーダー養成講座を修了したメンバーで構成されていて、消費者の権利を守る為に消費生活に関する知識を自主的に習得しながら研修会、啓蒙、啓発活動を主に行っています。

出前講座として最近増えている悪質商法に関する紙芝居等を行っています。

昨年は県のパートナーシップ事業に参加し、益子町、市貝町の消費生活研究会の方々と共同で、それぞれの町の老人会や生きがいサロン等で、悪質商法の事例を寸劇、紙芝居で紹介させて頂きました。

町民祭ではカリンジューズの試飲、コーヒの販売や消費者問題のPRをしています。又、毎年会員の親睦も兼ねて視察研修会を開催しています。

年々会員数も減る中で活動も制限されますが、県の消費者リーダー協議会と連携をとりながら、消費者トラブル防止に向けてこれからも活動が出来ればと思っています。

(会長 佐藤 幸枝)



J Aはが野女性会

私達JA女性会は、JAが後押しをする組織です。女性の声をJA運営に反映させるために参加参画を進め、女性の総意にもとづいて自主的に活動する組織です。

現在の活動内容は、春と秋の日帰り旅行、地産地消を目

的とした料理教室、手芸教室等です。本部の行事（観劇・ミニ運動会・文化発表会）への参加も大きな活動です。女性組合員の拡大、食材等の共同購入も行っています。又、長年全会員でアルミ缶回収を行い、益金から「すこやか南高」に物品を寄付するボランティア活動も行っております。社会の多様化で女性会に求められる事も変わってきている今日、会員の減少が問題になっていきます。若い世代の女性が参加しやすい活動を検討しているところです。

女性が元気で輝いていると家庭内が明るくなります。「仲間づくり」「みんなでレベルアップ」「女性の声を大きく」を目標に、やられる活動からやってみたい活動へ。豊かな「農」のある暮らしを目標に活動を続けていきたいと思っています。

芳賀町ひばりの会

この会は栃木県女性教育指導者研修会修了者で組織され現在二十六名が、「会員相互の親睦を図り女性の地位と教養の向上につとめ芳賀町の発展に寄与する」という目的のもとに活動しています。特に今年度は県のイベントである平成二十一年度「とちぎ教育の日」生涯学習フェスティバル県央ブロック研修会が芳賀町開催ということで、会員もファシリテーター養成講座を受講したり、何度も会議を開いて検討を重ねてきました。

昨年十月十七日、芳賀町農業者トレーニングセンターを会場に、県内五市七町から百数十名の参加者があり、「支えあい・助け合い・愛ある暮らしを」をメインテーマに、大山知子氏の基調講演「介護プロの現場から」・パネルディ

スカッション「介護 地域家庭から」介護予防のための健康体操などの内容で実施されました。高齢化社会の中で核家族化・女性の社会進出・老介護が増える昨今、介護は家族で支えることは困難な時代となり、時宜に叶う問題提起だったかと思われます。この研修会開催にあたり、町長さんはじめ、相当機関から温かいご支援ご協力をいただき深く感謝いたします。

(会長 小筆公子)



農村生活研究グループ

昭和三十六年に農村生活改善グループ協議会として発足し、主に農村生活の向上や食生活の改善等の活動を行ってきましたが、平成十二年に農村生活研究グループ協議会と変わり、活動内容もゆとりある生活の研究、知識・技術等の情報交換や、男女共同参画・

家族経営協定の推進協力を行う等の活動に取り組むようになりました。この十年間で私たちの仲間から、女性農業士・農業委員・女性起業家も誕生し、農村女性のリーダーとして活躍していることはとても嬉しいことです。これも、諸先輩方の継続的な活動と努力のたまものだと思います。

現在、七グループ二十八名の会員で活動していますが、今年度は食の安全と地産地消をテーマに、自家栽培したさつまいものスティックを町民祭で販売したり、米粉パン作り、豆腐作り等の事業を行っています。

今後も、会員みんなの活動拠点として共にこの会を繋いでいきたいと思っています。

(小林 峰子)



日本赤十字奉仕団 日赤奉仕団の歩み

○昭和六十三年四月一日 日赤奉仕団結成
○平成四年 日赤奉仕団が消滅状態のため、婦人防火クラブの役員が、日赤奉仕に参加する。会長は、婦人防火クラブ菅原キーンが兼務する。
○平成五年 新規団員を増やそうと、団員再募集。九十六名の団員の賛同を得て、再結成される。
○平成八年 事務局が、役場福祉課へ移管する。
○平成十一年 日赤看護渡辺副部長さんの、家庭看護法、救急法、介護法等の講習会開催する。
○平成十四年 芳賀町防災訓練、六百五十食の非常食の炊き出し。
○平成十七年 町で、六十五歳以上のお年寄りが三千八百名を超えた為、誰もが避けては通れない老い、又いつあるか分からない、介護への心の準備と致しまして、車椅子、介護法の実技等、講習会開催。
○平成十八年 総合防災訓練見学（那須）

○平成十九年 女団連の、団体活動の発表で、非常食の炊き出し、実演し試食して頂く。
○平成二十年 女団連、地元の食材を利用した試食会。
○平成二十一年十月十一日 総合防災訓練（那須川）
○平成二十一年十月十一日 県防災館見学（体験）
○十一月二十一日 第一回芳賀日赤ふれあいデー
今後、体験や活動の輪を広げ、女性だから出来る価値のある仕事に、素敵に輝いて、優しく、温もりのある活動が続けて参りたく存じます。
（委員長 菅原 キン）



とちぎのぼろの会 芳賀支部

綱川みね子

私たち「とちぎつばさの会芳賀支部」は現在八名で活動しています。
女団連に入って六年目になります。

月一回の定例会では意見の交換や新しい出し物の検討を



しています。また各公民館の生きたいサロンに向き、紙芝居や朗読劇、カルタなどをしていきます。
男女共同参画の紙芝居家族のきずな「おじいちゃん編」とジェンダー川柳のカルタが好評です。現在は父親の子育て参加や熟年夫婦のきずなをテーマにした朗読劇の制作中です。また昨年は富山で開催された日本女性会議に三名が参加して知識を高めました。

栃木県女性の海外研修は平成十八年で終了して現在は「青年の船事業」と「女性の海外研修事業」が統合され「次世代人材づくり事業」に変わりました。まだ芳賀町ではこの事業に参加した人はいませんが、ぜひ参加して幅広く知識と交流を深めていただきたいと思います。

総会

五月二十三日（土）
町民会館研修室

来賓に教育委員長の稲川知法氏をお迎えし、総会が開催されました。議長にはJAが野芳賀地区女性会の菊地富士子さんが選出されました。
総会後は、平成二十年十月に富山で開催された、日本女性会議に参加した大根田和子さん、小林峰子さんの報告会がありました。



平成21年度芳賀町女性団体連絡協議会役員

役職	氏名	団体名
会長	廣木 初江	とちぎつばさの会芳賀支部
副会長	小林 功子	JAはが野芳賀地区女性会
副会長	岡田 順子	芳賀町ひばりの会
書記	荒井三津子	日本赤十字奉仕団
"	谷口美智子	事務局
会計	大根田理子	芳賀町くらしの会
"	小堀 光子	芳賀町商工会女性部
理事	田中ハマ子	"
"	豊田美恵子	"
"	菊地富士子	JAはが野芳賀地区女性会
"	梅澤ノブ子	"
"	小筆 公子	芳賀町ひばりの会
"	川又 和子	"
"	佐藤 幸枝	芳賀町くらしの会
"	酒井 由理	"
"	斎藤 恭子	農村生活研究グループ
"	小林 早苗	"
"	稲葉アサノ	日本赤十字奉仕団
"	綱川みね子	とちぎつばさの会芳賀支部
"	黒崎 幸恵	"
監事	小林 峰子	農村生活研究グループ
"	菅原 キン	日本赤十字奉仕団

平成二十一年度研修会

ファシリテーター養成講座

研修会に参加して

黒崎 和子

昨年八月二十四日、芳賀町工業団地管理センターで、宇都宮大学教授、広瀬隆人氏のファシリテーター養成講座がありました。耳なれない言葉に戸惑いましたが参加致しました。まずどんな形で、どんな話しをするのか先生の言葉に耳をかたむけました。四人から五人位のグループに別れ、

席された方全員の意見を引き出し、異なった意見でもお互いを思いやるやさしさが伝わるよく理解して応援する姿勢が大切との事。初体験で少々難しさの中にも暖かみのある講座でした。

テーパー毎に一枚の大きな模造紙とサインペンでグループの方がそれぞれ何枚かの情報カードを持ち文章を読みます。一人の方がそれを絵にしています。各自持っているカードが終わる頃には一枚のまとまった絵のようになります。今回はグループ学習でした。ファシリテーターの役目は出





アンケートから

- ・水の飲み方、必要性を実感し、勉強になった。
- ・食事の取り方にも順序があり、特に発酵食品を上手に取り入れる事が大事で参考になった。
- ・お話しが大変わかりやすく家族や友人、近所の方に伝えていきたい。

- ・電子レンジの使い方、置き方が参考になった。
- ・家庭の主婦としてももっと速く知れたかったが今からでも病気になる生活ができるような心がけたい。
- ・二度目の講演が聞きたい。
- ・もっと大勢の人に聞かせたかった。
- ・時間が足りなかった。

講演会は一時間半を予定しておりましたが、竹井先生は一時間ちようどのところで話を終えられました。「あつ、まだ試食会の準備ができてない！」質問を受けると言ってお下さると、次々と手が上がりました。丁寧に答えて下さり、「今度は時間オーバーかな…」聞きたいことは手紙でも受け

付けますと言ってお下さり、実際に試食会で食べる順番の説明もして下さいました。先生のおかげで大好評でした。試食会は、「家でも作れるし参考になる」との声。「しもつかれが美味しかった」の声が多くありました。

(つどい担当)

女性団体連絡協議会 町民のつどい アンケート

1 講演会について

- ・参考になる情報はありましたか？
- ・生活に取り入れてみようと思いますか？
- ・家庭や周囲の方に今日の話をなさいますか？

はい いいえ
はい いいえ
はい いいえ

★講演会はいかがでしたか？

1 2 3 4 5
大変よかった よかった どちらとも言えない あまりよくなかった よくなかった

竹井先生への質問・ご意見・ご感想など

2 試食会について

- ・味噌の味見はできましたか？
- ・お弁当バイキングでおいしかったものは何ですか？

はい いいえ

★試食会はいかがでしたか？

1 2 3 4 5
大変よかった よかった どちらとも言えない あまりよくなかった よくなかった

3 つどい全体について

★本日の町民のつどいのテーマや会場や日時はいかがでしたか？

★今後のつどいの為に、ご意見・ご要望・参加してみたい企画などありますか？

ご協力ありがとうございました。



第9回 かがやく町民のつどい

「10歳若返る!

病気にならない食の話」+試食会



日時 平成22年1月29日(金) 場所 町民会館 研修室・会議室



第九回町民のつどいは、農学博士・管理栄養士他の肩書きをお持ちの竹井真澄先生の講演会と発酵食品の試食会を行ないました。

先生はご自分を「人間の身体の使い方を説明する人」と言い、「知っているればまだ間に合う」と講演が始まりました。

つどいの講演会を聞いて

斉藤 芳子

最近年だからしょうがないよね、と諦めていた所、先着百名だよとお誘いを受け、これは絶対聞く価値ありと思ひ参加させて頂きました。「病気になってからでは遅い。知っていればまだ間に合う」の言葉に、真剣に聞く事が出来ました。ガン細胞は誰でも毎日できていて知って知ってますか。そのガンに勝っているのが免疫力の力です。その免疫力を高めるには体温も重要な要素です。あなたの体温は何度ですか。医学的には36.5度以上あった方が良いでしょう。活性酸素(病気や老化の元)の要因でもある農薬や食品添加物等も、36.5度以上ある人は体外に出す事ができるそうです。又朝が苦手で起きられない人は35度位で、体が冬眠状態だそうです。体温も健康のバロメーターだと知りました。

水と酸素は人間にとって必要不可欠。朝に水を摂ると血液をサラサラにしてくれ、水は30秒で脳に行きます。脳が一番水を必要としているそうです。お茶やぬるま湯では、すぐに脳には行かないそうです。ここポイントです。きれ



いな酸素を意識的に摂る事も必要だそうです。10時や3時のお茶は、ビタミンCの補給にとっても良いそうです。抹茶もお勧めです。食事の摂り方にも順序があり、酵素が入っているものを先に摂ると、胃液のむだ使いを無くし、消化しやすくするそうです。生野菜等も先に食べると良いそうです。甘い物を夜に摂ると「疲れ」になります。糖は朝に入れると脳が働くそうです。

タンパク質は夜吸収されるので夕食にお勧めです。経験と能力の使い方によってボケにならないそうです。等々情報満載でした。くらしに活かしていきたいと思いました。



STAND UP! 立ち上がろう! DV根絶をめざして

第12回全国シェルターシンポジウム2009 inとちぎ

2009年11月22日(日)・23日(月・祝)

会場: 栃木県総合文化センター ほか

民生・児童委員 塙 テル
私達は、平成二十一年十一月二十二日に、栃木県総合文化センターで行われた第十二回全国シェルターシンポジウム2009 inとちぎに参加する機会を得ました。このシンポジウムはDV被害者の支援に取り組む民間団体や専門家が中心となって、一九九八年から毎年開かれていますが、本県での開催は初めてのものとなります。第一日目の開幕式の後に行われた基調講演では、スウェーデンの弁護士が、

昨年十一月二十二日～二十三日に、内閣府特命担当大臣の福島瑞穂氏を迎え、全国シェルターシンポジウムが開催されました。多くの人にDV防止と被害者支援を訴えたこの大会に芳賀町からも多くの方々が参加し、地域でのDV根絶の機運の高まりを感じとってきました。その参加者の中から二名の方に感想をいただきました。

民生・児童委員 黒須 敏文
去る十一月二十二日に県総合文化センターで開催された「全国シェルターシンポジウム2009 inとちぎ」に民生・児童委員として参加させていただきました。全国から宇都宮に千二百人が参加されると聞きましたが、メインホール客席は、ご婦人が大半を占めて熱気にあふれていました。

DV被害者をめぐる同国の先進的な取り組みを紹介され、法整備の充実、地域社会でのサポートの重要性を訴えていました。日本においてもDVで傷つく女性や子供達が後を絶たず、社会問題となっていますが、この講演を拝聴し、私達一人ひとりが人権を尊重し、人格を思いやる心を育む社会作りが必要であることを再認識しました。

洋画家 小原みき氏のデザインでTシャツを制作しました。この大会のためにパープルリボンをあしらっています。



テーマ「命の輝きを描く」

これら女性の人権を侵害するDV被害は、当事者だけでなく、見て育った子供達にも深刻な影響を及ぼし、成長しても人間関係が築けず、自分自身がDVの当事者になってしまふ暴力の世代間連鎖が生じるおそれもあるという話に大きなショックを受けました。

山の動く日きたる～ジェンダー平等の宇宙へ～

“山の動く日きたる”は、女性の自立と解放をうたった与謝野晶子の詩です。すべての人がその個性と能力を輝かせる社会を築くため、晶子を生んだ堺から世界へ、そして宇宙へとジェンダー平等を発信していきます。



<作品の趣旨>

シンボルマーク全体のデザインは、堺市の歴史遺産である古墳の形、前方後円墳をモチーフに、すべての人が性別にとらわれずに共に協調し、発展する姿をデザインしています。

色彩は、成長や未来への息吹きをイメージさせる「若草色」を選択し、「日本女性会議 2009 さかい」から若葉が育ち、活気ある堺から世界へ「ジェンダー平等から平和」を発信していく、新しい時代の芽生えを表現しています。

日本女性会議 2009 さかい JAPAN WOMEN'S CONFERENCE IN SAKAI 2009

大会参加者 荒井マサミ 綱川みね子

2009年10月30日(金)・31日(土) 【主催】 日本女性会議2009さかい実行委員会・堺市

「山の動く日来たる」女性書家による力強い筆致で、本大会の開会となりました。堺市で誕生した情熱の歌人 与謝野晶子は、百年も前に、女性の地位向上、自立と解放を願い、うたった「山の動く日」の冒頭の一節です。堺市は、全国初の「男女共同参画都市」宣言。「平和と人権を尊重するまちづくり条例の制定」。大阪府初の「男女平等社会形成の推進に関する条例」の施行と、男女平等社会の実現に向けて、先進的な取り組みをして来た市という事です。

記念講演、基調報告、対談、十七分科会の多岐多様な内容でのパネルディスカッション。基調報告の中で、各分野における女性の指導的地位が、三十パーセント以上の国は、ほんのわずかである、との事。分科会は「人間尊重」「女性への複合差別」でした。四人



全体会 会場

全体会 会場前で